

羽黒と藤島の堆肥センター 民間譲渡・貸付の協議 決着なければ30年度で廃止か

藤島地域の「藤島工」有機センター」と羽黒地域の「高品質堆肥製造施設・羽黒堆肥製造供給施設」（羽黒堆肥センター）は、鶴岡市行政改革大綱（平成28年7月）に基づき実施計画で「民間譲渡・貸付」の方針が出られています。市ではJA庄内だがこの方向性を協議してきましたが、JAでは行政が責任を負うべき主張が強まりました。JAでは「市は堆肥センターを廃止するのかわり受け止めたい」とも。

旧藤島町のエコタウンプロジェクトの中核施設である藤島エコ有機センターは、旧藤島町が04（平成16）年3月末に竣工しました（総事業費は4億6千万円、国2分の1補助事業）。同センターはエコハウス（加圧混練機）という特殊な機械を使って堆肥製造し、臭いも極めて少なく、土が元気になる良質な堆肥となつていきます。

農協・農家に丸投げ納得できない

合併前の旧市町村で設立した堆肥センターは藤島と羽黒の2カ所。一方、農協が設立した堆肥センターはJA庄内だがわの櫛引堆肥センターと、JA鶴岡の西郷堆肥センターがあります。JAでは、行政が設

立した直営の堆肥センターを、行革だから農協・農家に丸投げするのは納得できないと反発しています。

エコタウン

旧藤島町は、2002（平成14）年度からまちづくりの基本に循環型社会「エコタウンプロジェクト」に取り組み、エコタウン推進係長に武田壮一氏（現・市農政課長）を据え、同年12月に全国初の遺伝子組み換え農産物の栽培規制を盛り込んだ「人と環境にやさしいまちづくり条例」を制定しました。

03（平成15）年2月には、日本有機農業研究会の第31回全国大会を旧藤島町で開催し、全国から約500人が結集しました。

03（平成15）年度から有機農業法や地産地消の推進など7つの主要プ

私の昭和 48

鈴木重雄（89歳・八色木）

農業手形制度が農家経済を救った。

農業手形は（農手）はコメの販売代金で返済するという条件で、生産資材購入のため収穫期に入る前の前渡し金である。資金不足の農協にとっては大いに役に立った。

特に八栄島農協は資金不足で、担当者は県信用協同組合連合会（県信連）通いであり、信連から再建指導のため泊りがけで農協に来ていた。

何しろ基盤も弱く販売額も少なかったため、畜産業を志す組合員に融資する資金が無かったのである。

このようにして大正

11年産業組合設立以来、昭和44年町内第一次合併（藤島、長沼、八栄島、渡辺）まで48年間、地域発展のため渾身の努力をしてきた先人先輩に敬意を表したい。

※農業手形（のうぎょうてがた）：農家の経営資金調達のため、供米代金等を償還財源として農業協同組合が振り出す約束手形。

1948年創設され、日本銀行の適格担保として融資を受けられた。1959年以降は日銀融資は打ち切られ、農協系統金融機関内だけの特別営農資金制度に移行。（百科事典「マイペディア」から）

嘱託職員の身分をJA臨時職員に移管し、業務は農協の藤島堆肥散布組合に委託して運営しています。

同じく市直営の羽黒堆肥センターは平成24年度から指定管理を「鶴岡市羽黒高品質堆肥製造施設利用組合」に委託し、今年の3月議会で委託継続しました。

榎本市長は「民間が主役、行政は支援」という考え方で次々と旧町村の施設を廃止、民営化を進めてきました。

しかし、高知県など他の自治体は、現状を打破するため従来の枠を超えた行政主導の産業振興で成果をあげており、榎本市政は地域の衰退を招くのみです。



中仙道テクテク一人旅(その12) 山小屋の親爺は南極の料理人

(新町 齋藤留治)

テクテク歩いて信州の佐久平へ。

中仙道筋では、昔の松並木と石畳の連なる景色を最も残していると言われる笠取峠を越えて長久保宿へ入る。

笠取峠といえば、庄内の三瀬から小波渡に至る海岸線沿いにもあるが、こちらの方は国道7号線沿いの日本海

がとても綺麗に眺められるが、強風が吹き荒れる断崖絶壁の上にある峠。私が喘ぎ登った

信州中仙道の笠取峠は、旅人が上り坂にウンザリして笠を取ってしまふという事から呼ばれたという。

峠を越えて長久保宿に民泊し諏訪湖に向かつて歩いて行くと、右

・美ヶ原高原・左、霧ヶ峰高原という標識があった。

中仙道からちよい外れるが霧ヶ峰高原に立ち寄ることにして2千メートル級の草原を眺

め、高層湿原で有名な八島が原湿原へ。

泊まった山小屋では山ガールとはちよつと褒め過ぎになる年増方

ール達の登山談議を聞いてお酒をちよつぱり飲んでいると、帳場の仕事

が一段落したのか小屋の親爺さんが話に加わってきた。

おばさん達が「こんな山の中でステーキを食べられるとは思わなかった。(私はステーキを好まないので無言)」と

口々に褒めちぎると親爺さんは自分史を語り始めた。

親爺さんによると過去2回南極の昭和基地で働いたので料理は手のもの、南極では野菜は全部冷凍の物を使用するそうですが、キ



ユウリだけは冷凍出来ないの食べさせることは出来ないとのこと。

その他は殆ど家にいる時と同じような物を食べる事が出来るそうだ。

初めて手にした南極

の石、何千万年前に氷に閉じ込められた水などを見せてもらって南極の話に耳を傾けたひと時でした。(話題はもつと沢山)

「ふと心に芽生えた何かを追って(中略)いつかまた還ってくる高原は我が心のふるさと」

夫婦で営む山小屋の親爺さんらしい一節です。

「天皇を戴く国」―主権者国民を臣下(しんか・家来)に

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇

自民改憲案のもう一

① 日本国は、長い歴史と固有の文化を持ち国民統合の象徴である天皇を戴く国家であって、国民主権の下、立法・行政及び司法の三権分立に基づいて統治される。



自民党憲法改正草案前文「天皇を戴く国家」(カットは週刊金曜日13年4月12日号から)

つの問題点は「天皇を戴く国家」である。「国民統合の象徴である天皇を戴(いただ)く国家であって」と書き「天皇を戴く国」にしている。さらに第一条に、「天皇は、日本国の元首であり」を新たに明記、

そのつぎに「日本国及び日本国民統合の象徴」として、象徴天皇を残したかのようにおそれているが、それは欺瞞(きまん)である。

「戴く」とは、広辞苑によれば「崇めて大切に扱う。敬い仕える。」

奉戴する。」とあり、奉戴するとは、漢和辞典によると「君主として上においておしいただく」とあり、また元首とは、「国家を代表する資格をもった国家機関。君主国では君主、共和国では大統領あるいは最高機関の長」としている。

要するに、天皇は象徴という言葉は残しているが、国民は、「日本国の長」である天皇の家来のように敬いお仕えする存在に変えよう



首相の欲望

止めてくれるな妙進殿、行かねばならぬ。行かねばならぬのだ。は、ご存じ。三波春夫が唄った大利根無情は天保水滸伝で平手造酒のセリフとして知られる一節だ。

▲彼は、起きる事件の為に住みこませてもらっている身で、何かがあれば駆けつけ、命を賭けて闘うのが役目。そして死んだ。

▲しかし、駆けつけ警護とやらの南スーダンには、どんな義理があるってんだい。しかも文化祭の時期だからといって下手な学芸会をテレビにながしてサ。▲武器を持たない相手ならサツで間に合うでしょうや。スピーカーで教えて追い出すのならJDポリがやっつてるじゃないですか。よくもマー、こんなものに金をかけて全国に流したもんだよ。あそこは、

としているのである。これは何でも「天皇のため」として国民を従わせ強制した戦中の天皇制国家へ逆戻りするもので、戦争を反省し天皇を非政治的な存在である象徴とした憲法の本質を骨抜にしてしまつものである。

蛇足ですが、私の父は、戦時中、天皇の写真が載った新聞をトイレに置いたのを密告され一晩警察で絞られたことがありました。

内戦中で殺し合いをしている所なんだぜ。

▲国民をバカにするんじゃない。戦後初めて殺し殺されることになると国会で議論し、自衛隊員の親たちは、自衛隊員にしたことを悔やんでいる時にだ。

▲安全だ・心配ないと言ふならば、なんのために自衛隊に新たな武器を持たすんだヨ。日本人は世界中で活躍しているが、そこ南スーダンには助ける日本人はいないんだぞうだぜ。

▲なにがなんでも自衛隊に武器を持たせて外国に出したいという首相の欲望。補佐官を遣つて「親書(密書)を持つて売り込み」をしたとの報道だ。当然、あつちの大統領は、来てもいいよ・となるぜ。▲どんな議論でもウンとは言わない・そして数でゴリ押しだ。こんな首相は早いとこ変えないとダメだぜ。な。

(石川)